

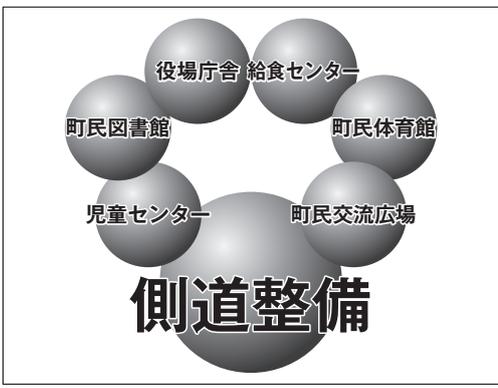
側道整備

リニア中央新幹線事業に伴う

町では、現在直画している課題に対応するため、7つの大規模事業を計画しています。「広報ふじかわ」平成29年2月号で、その事業の概要をお知らせしました。

これらの事業について、より具体的な内容を皆さんに知っていただくため、7つの大規模事業を1つずつ、シリーズでお伝えしています。

第6回となる今回は、リニア中央新幹線事業に伴う「側道整備」についてお知らせします。

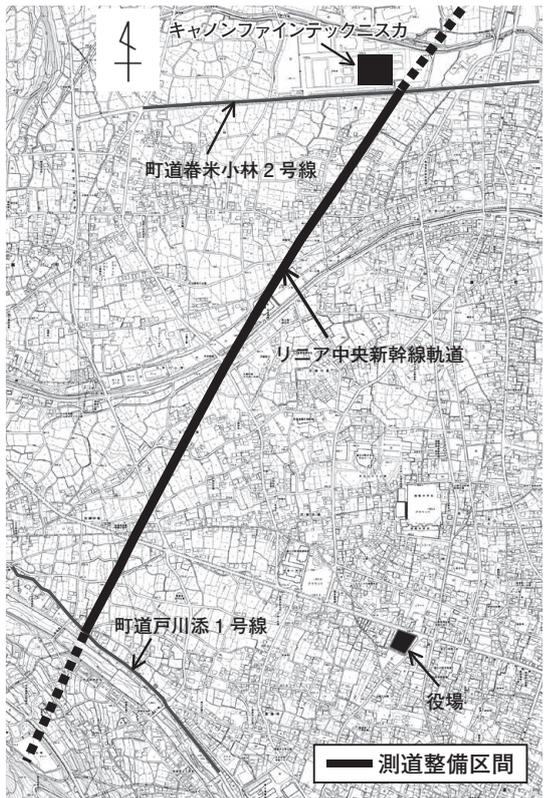


背景

平成23年、JR東海からリニア中央新幹線の県内ルートが示されました。町内を通るルートは、約13kmで、そのうちの約2・6kmをトンネル区間ではない明かり区間として、高架により通過することが発表されました。

こうしたことから、平成24年2月、富士川町、中央市、南アルプス市の1町2市で構成する「リニア中央新幹線甲府駅西部沿線地域活性化対策協議会」を設立しました。この協議会では、リニア中間駅への交通アクセス網の充実や沿線地域の環境整備の促進を図るため、広域的に地域間を結ぶ生活用道路として利用でき、地域の活性化につなげていくアクセス道路（側道）の活用について、協議を進めてきたところです。

こうした経過の中、町では、沿線家屋の直近を高架構橋が通過することによる閉塞感や圧迫感



整備内容

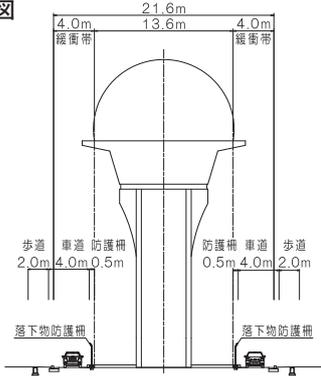
側道は、延長約2・0kmで、リニア用地幅21・6mの両側の緩衝帯を利用し、基本的に車道幅員4・0m、歩道幅員2・0m、防護柵設置幅0・5m、全体で6・5mの道路となります。

を少しでも緩和させるため、緩衝帯を広く設けることを前提に、最勝寺地区の戸川沿いの町道から小林地区のキャンノンファインテックニスカ力前の町道までの間のリニア中央新幹線ルートに側道を整備することとしました。

目的

- ① リニア建設用地に接する土地の土地利用の向上と町全体の道路網として整備するため。
- ② 家の直近を高架構橋が通過することを緩和させるために緩衝帯を広く設けるため。
- ③ JR東海の管理地(幅21・6m)と民地との間にフェンスが建てられることによる、閉塞感や圧迫感を除くため。

側道標準断面図



概算事業費の内訳

(単位：千円)

概算事業費	財源内訳		
	国県支出金 (国・県から交付される補助金など)	地方債 (借入金)	一般財源
1,300,000	650,000	650,000	0

※現時点の想定であり、実際の支出とは異なります。



▲側道のイメージ (笛吹市)

●お問い合わせ
土木整備課 一般土木担当
22-72003